和歌

万葉集 ―品詞分解―

天皇、蒲生野に遊猟するときに、額田王の作る歌

あかねさす（枕）紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る（係助・反語／格助・主格／ラ四・体／格助・場所／サ変・体／格助・時間／カ四・用／カ四・用／係助・提示／マ上二・未／打・終）

（巻一・雑歌）

額田王

皇太子の格助・主格答ふる御歌

紫の格助・比喩にほへ八四・已る存・体妹を格助・対象憎く形ク・用あらばラ変・未人妻ゆゑに格助・原因我恋ひ八上二・未め意・未やも係助・反語

（巻一・雑歌）

大海人皇子

軽皇子、安騎の野に格助・場所宿らラ四・未せ尊・已 撰者→軽皇子るときに格助・時間、

柿本朝臣人麻呂が格助・主格作るラ四・体歌

東の格助・体修野に格助・場所かぎろひの格助・主格立つタ四・体見えヤ下二・用て接助・単接

かへり見すれサ変・已ば接助・順偶月傾きカ四・用ぬ完・終

（巻一・雑歌）

柿本人麻呂

山部宿禰赤人、富士の山を格助・対象望むマ四・体歌

天地の格助・主格分かれラ下二・用し過・体時ゆ格助・起点神さびバ上二・用て接助・単接高く形ク・用

貴き形ク・体駿河なる在・体富士の格助・体修高嶺を格助・対象天の原

振りさけ見れマ上二・已ば接助・順偶渡るラ四・体日の格助・体修影も係助・列挙隠らラ四・未ひ継・用

照るラ四・体月の格助・体修光も係助・列挙見えヤ下二・未ず打・用白雲も係助・列挙

山部赤人

い行きはばかり（ラ四・用）
時じく（形シク・用）
そ（係助・強意（係））
雪は（係助・強意）
降り（ラ四・用）
ける（詠・体（結））
語り継ぎ（ガ四・用）
言ひ継ぎ（ガ四・用）
行か（カ四・未）
む（意・終）
富士の（格助・体修）
高嶺は（係助・提示）

（巻三・雑歌）

反歌

田子の浦ゆ（格助・経場）
うち出でて（ダ下二・用／接助・単接）
見れ（マ上一・已）
ば（接助・順偶）
ま白に（格助・変化）
そ（係助・強意（係））
富士の（格助・体修）
高嶺に（格助・場所）
雪は（係助・強意）
降り（ラ四・用）
ける（詠・体（結））

（巻三・雑歌）

山上憶良臣、宴を（格助・起点）
まかる（ラ四・体（謙）撰者→宴席）
歌

憶良らは（係助・区別）
今は（係助・区別）
まから（ラ四・未（謙）憶良→宴席）
む（意・終）
子泣く（カ四・終）
らむ（現推・終）
それ（接）
その（代）
母の（格助・体修）
母も（係助・同類）
我（代）
を（格助・対象）
待つ（タ四・終）
らむ（現推・終）
そ（係助・強意）

山上憶良

（巻三・雑歌）

東歌

作者未詳

多摩川に（格助・場所）
さらす（サ四・体）
手作り（副）
さらさらに（副）
なに（副）
そ（係助・強意（係））
こ（代）
の（格助・体修）
児の（格助・主格）
ここだ（副）
かなしき（形シク・体（結））

（巻十四・相聞）

二十五日に（格助・時間）
作る（ラ四・体）
歌一首

大伴家持

うらうらに（副）
照れ（ラ四・已）
る（存・体）
春日に（格助・時間）
ひばり
上がり（ラ四・用）
心悲し（形シク・終）
も（係助・詠嘆）
ひとり
し（副助・強意）
思へ（ハ四・已）
ば（接助・順偶）

（巻十九）

防人歌

言し　過・体

言ひ　ハ四・用

て　格助・引用

あれ　ラ変・命

幸く　副

かきなで　ダ下二・用

頭　

が　格助・主格

父母

ぜ　係助・強意（係）

葉

忘れ　かね　ナ下二・用（ラ下二・用＋補動）

つる　完・体（結）

（巻二十・四三四六）